

中山間地における飼料用米専用品種の立毛乾燥技術					
[要約] 中山間地における飼料用米専用品種は、立毛乾燥に取り組むことで、 <u>籾水分 18%以下</u> まで乾燥することができ、 <u>籾乾燥にかかるコスト低減</u> が可能である。					
佐賀県農業試験研究センター 三瀬分場山間稲作研究担当			連絡先	0952-56-2040 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	作物	専門	栽培	対象	水稻

[背景・ねらい]

佐賀県の中山間地で推進されている飼料用米専用品種は、より低コスト技術が望まれている。そこで、中山間地における飼料用米専用品種で取り組み可能な低コスト技術として、立毛乾燥技術を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 立毛乾燥技術は、成熟期後も収穫せずに圃場に立たせたままで籾水分を低下することができる(図1)。
- 立毛乾燥に取り組むことで、成熟期後 10 日頃(積算気温約 130℃頃)に籾水分を 18.0%以下まで乾燥できる(図2)。
- 立毛乾燥による収穫適期は、成熟期後 10~15 日頃(積算気温 130~200℃の範囲)である。適期を過ぎると、降雨や朝露による籾水分の上昇や、穂首の老化による「穂の挫折」が発生する(表1)。

[成果の活用面・留意点]

- 飼料用専用中生品種「みなちから」に適応できる(「みなちから」の脱粒性は「難」)。
- 成熟期の判定は、主食用品種に準じる(有効穂の黄化籾率 80~90%以上)。
- 立毛乾燥による籾水分 18.0%では貯蔵性が不十分であるため、籾水分 15.0%以下となるよう仕上げ乾燥が必要である。
- 立毛乾燥による籾水分は、降雨や朝露の影響が大きく、降雨が続く年次は、立毛乾燥収穫適期の範囲内で、晴れ間を見ながら速やかに収穫する(「みなちから」の穂発芽性は「やや易」)。
- 圃場を主食用米の作付に戻す際、前年落下籾の漏生苗対策は、トリケトン系 4-HPPD 阻害型除草剤成分(ベンゾピシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン等)を含有する除草剤を使用することで、漏生苗を枯死できる(「みなちから」等、当該除草剤成分に感受性の飼料用米品種のみ)。

[具体的データ]



図1 立毛乾燥中の飼料用米品種「みなちから」の穂の状況 (2016年、成熟期後27日)

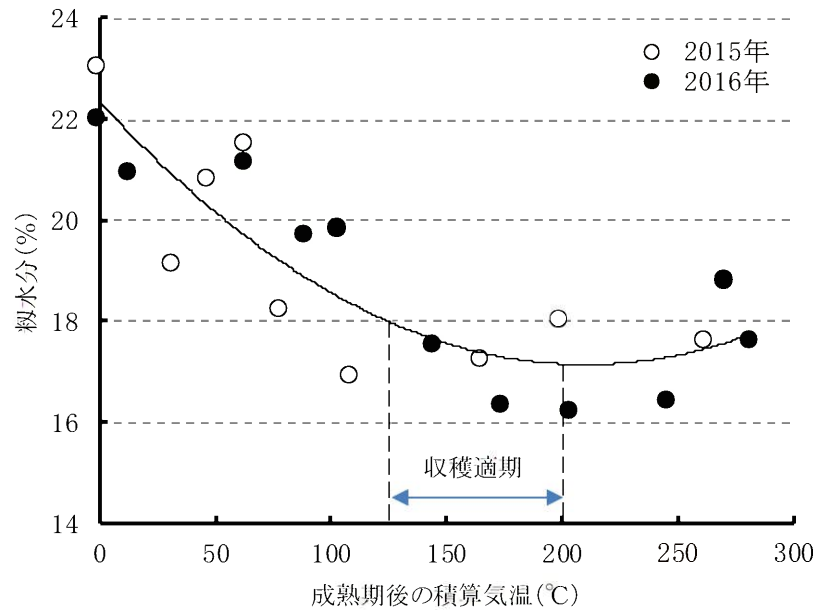


図2 成熟期後の積算気温と立毛乾燥中の籾水分との関係(「みなちから」)

表1 「みなちから」の成熟期後の穂及び籾の形質

成熟期後日数 (日)	積算気温 (°C)	立毛籾水分 (%)	籾の脱粒数 (籾/穂)	穂発芽程度 (0~5)	検査等級 (合否)	備考
0	0	23.6	0.6	0.0	飼料合格	
13	180	18.2	0.9	0.0	飼料合格	倒伏なし, 自然落下籾なし(収穫適期)
18	256	16.4	1.5	0.0	飼料合格	倒伏なし, 自然落下籾なし
31	406	17.6	2.5	0.0	飼料合格	倒伏なし, 「穂の挫折」が発生

- 1) 2016年試験成績。5月16日機械移植。成熟期9月23日。
- 2) 籾の脱粒数は、20穂を手で握り、脱粒した籾数の平均値を示した(「みなちから」の1穂籾数は約150粒)。
- 3) 穂発芽程度は0(無)~1(微)~2(少)~3(中)~4(多)~5(甚)で示した。

[その他]

研究課題名：中山間地における飼料用・米粉用米品種の選定と栽培法の確立

予算区分：県単

研究期間：2014~2017年度

研究担当者：松本和大、平博之